

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら西大宮教室			
○保護者評価実施期間	令和7年10月22日 ~ 令和7年11月10日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数)	26
○従業者評価実施期間	令和7年9月23日 ~ 令和7年10月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月30			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々のニーズに合わせ適切なアセスメント、客観的な課題分析をした上で個別支援計画を作成している。計画はチームで共有し、支援も計画に沿って行っている。	児童発達支援管理責任者が丁寧に保護者からのニーズを聞き取り計画を作成している。また、計画と利用時の記録を職員全員で共有することで、目標達成に向けた支援を行うことができている。	毎日振り返りの時間を持ち、不十分だった部分について話合い、より良い支援につなげていく。
2	お子様の状況を日頃からご家庭と伝え合い、共通理解のもとで支援を行っている。 また、お子様が共感的に支援をされている、安心感を持って通所していると多くのご家庭が感じている。	子ども達の細かな変化や成長を送迎時や連絡帳を通じてご家庭に伝えるようにしている。	現在ご利用家庭も含め、新規のご家庭にも当初から安心して通所頂けるように、各ご家庭のニーズやお子様の状況を会議や振り返りを通してチーム全体で共有し、支援を行っていく。
3	SNSや会報で活動や行事等の情報を発信している。	SNSでは活動の様子を月数回、毎月の会報ではイベント等について発信をしている。また制作活動の様子について毎月SNSで個別に写真を送信している。	よりタイムリーに活動の様子を伝えることができるよう現在使用しているツール以外の発信方法を探っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われる	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流（幼稚園や保育所など地域のほかのこどもと活動する機会）が少ない。	近隣の児童センターや公園に出掛けたり、他事業所と交流したりする機会を設けているが、地域の他の子ども達と交流するとのできる地域資源などの把握ができていない。	地域の子ども達に向けてボランティアをしている高校、保育系の大学や専門学校などで開催しているイベント、児童センターの催し物への参加の可否について問い合わせをするなど、情報収集から始めていく。既に連携をしている地域の幼稚園、保育園との交流の可否についても探っていく。
2	家族支援プログラム（ペアレントトレーニング）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供が少ない。	家族支援として、毎年父子参観・Xmas参観を実施。運動会にはきょうだいも招き、保護者会では先輩ママの体験談を聞く機会を設けるなどの情報提供を行っている。保護者が参観できる就学向けクラスでは、ご家庭が就学を意識し準備を進めることができるようアドバイスもしているが、家族支援・情報提供という意図を明確に伝えきれていらない。	各取り組みの意図を会報などで明示する。 家族支援プログラムでは、ご家族が主体的に参加できるような方法を探ると共に、職員にも家族支援の意識を強く持つて参加者と関わるように務める。
3	支援終了後の振り返りが十分にできない時がある。	送迎や清掃、連絡帳記録業務などがあるため振り返りの時間を取ることができない。	職員の得意不得意を活かした業務分担を行うと共に、併設の放課後等デイサービスの職員に送迎や清掃といったサブプロセス業務を依頼し、振り返りの時間を確保する。

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら西大宮教室		
○保護者評価実施期間	令和7年10月22日 ~ 令和7年11月10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和7年9月23日 ~ 令和7年10月10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月30日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの最善の利益を考慮して個別支援計画を作成し、計画に沿った支援を行っている。	子ども時代を自分らしく過ごすため、将来ありたい過ごし、なりたい姿を叶えるための2つの視点を職員が常に持ち、計画を作成・共有している。また毎日の支援についてチームで振り返りを行っている。	ご家庭やお子様本人が安心して意思表示ができるより良い環境を整え、計画や支援に反映していく。 支援の充実を図るために、事前打ち合わせでは支援のポイントをチームで共有し、支援後は良かった点や更に工夫が必要な点を振り返る。
2	活動プログラムが固定化していない。	5領域に沿った活動を週単位で行い、偏りがないようにプログラムを作成している。	リクエストポストを設置し、子ども達から希望を発信してもらい、活動の幅をさらに広げていく。
3	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。それぞれに合った伝達方法を採用している。	子ども達のそれぞれの特性に合わせたコミュニケーションツール（文字、イラスト、写真など）を使用している。ご家庭との連絡手段も電話や対面、SNSなど複数のツールの選択肢がある。	子ども達が使用するコミュニケーションツールは、より使いやすくするために設置場所、使用方法などを検討する。

	事業所の弱み（※）だと思われるること ※事業所の課題や改善が必要だと思われる	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訓練室が見守りをしにくい構造になっている。狭く感じる場面がある。 トラブル対応時に人員が不足していると感じる場面がある。	幾つかの訓練室があるが一部のみ使用することが多く、効果的な使用ができていない。 職員によってはトラブル対応に苦慮する場面がある。	主に事業所家屋の2階部分を使用しているが、1階部分も活用していく。 職員の適性を考慮した配置を行うと共に、子どもの発達・特性を学ぶ機会を広く設け、職員のスキルアップを図る。
2	夏のボランティアを受け入れ、地域の祭りへの参加など地域交流はしているが取り組みが不十分と感じている。	地域交流活動の回数が少ない、内容が限定的である。	イベントや平日の活動プログラムに地域交流に結びつく内容を実施する。 教室の催し物などを地域に発信・開放する。
3	支援前に事前打ち合わせができない日がある。	長期休み短縮日課時などは送迎や勤務時間の関係で出勤者全員で打ち合わせをすることが難しい。	長期休み時は送迎組みを工夫し、送迎前に打ち合わせをする時間を設ける。 短縮日課時は、非常勤職員が支援のポイントを共有する時間を設けるなど短時間でも打ち合わせを行う。